

令和6年度中津分校の取り組み（総合的な探究の時間・学校行事等）

昨年度は、1年生・2年生を中心にコーヒー豆販売やコーヒーの販売、なかつ保育園との交流で、さつまいもの栽培、焼き芋販売を行い、収益の一部で絵本をプレゼントしました。今年度も総合的な探究の時間は、各学年のねらいを明確にし、学校全体として系統立てて行います。学校行事も、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる行事にしたいと思っています。

○総合的な探究の時間のねらい

総合的な探究の時間

中津の魅力
広げた隊





中津の魅力！

総合的な探究の時間での、3年間の授業の流れについて、何をを目指すのかを説明していきます。

1年生について
テーマは”知る”

地域に実際に足を運んでとにかく知ることを中心に据えて、探究していく。



具体的な内容

中津の産業を一緒にやる

紀州備長炭焙煎珈琲を作り、販売する。
デザイン・販売方法などを計画する。
商売を考え、持続可能とは何かを考える。

自分の地域を比較する

就学旅行の事前学習を通じて自分の地域の良さを考える。
修学旅行先の高校生と交流する。
事前学習として現地の高校生とオンラインで交流する。



2年生について テーマは”発信する”

具体的な内容

中津の産業を一緒にやる

紀州備長炭焙煎珈琲を作り、販売する。
デザイン・販売方法などを計画する。
商売を考え、持続可能とは何かを考える。

自分の地域を比較する

就学旅行の事前学習を通じて自分の地域の良さを考える。
修学旅行先の高校生と交流する。
事前学習として現地の高校生とオンラインで交流する。

3年生について テーマは**“広げる”**



具体的な内 容

中津の魅力をプレゼンする

中津分校、中津の魅力を中学校にプレゼンしに行く。日高郡内の中学校へ訪問してプレゼン。
生徒の出身校へオンラインプレゼン。

地元広報誌に参加する

地元広報誌や地元新聞に協力してもらい、高校生記者のページを作らせてもらう。
高校生が地元を取材して記事にして広げていく。

目標は何か

情報を正しく知る

ネットの情報だけでなく、実際に目で見えて体験してから情報を得る大切さを学ぶ。

地域課題を考える

地域が抱える問題を交流を通じて当事者意識を持って考えられるようになる。

比較して考える力

他の地域と比較することで良さを発見していく。
比較して考える力を身に付けていく。

発信力

学んだことをどう伝えられるか試行錯誤しながら学ぶ。

稼ぐ力

実際に販売することを通してお金を稼ぐことの難しさ、商売について体験していく。

答えのない問

正解がない問題に立ち向かうことで答えがない問に向き合っていく姿勢を身に付ける。

授業方法

3年間を通して学習していく意識を持ってもらう。

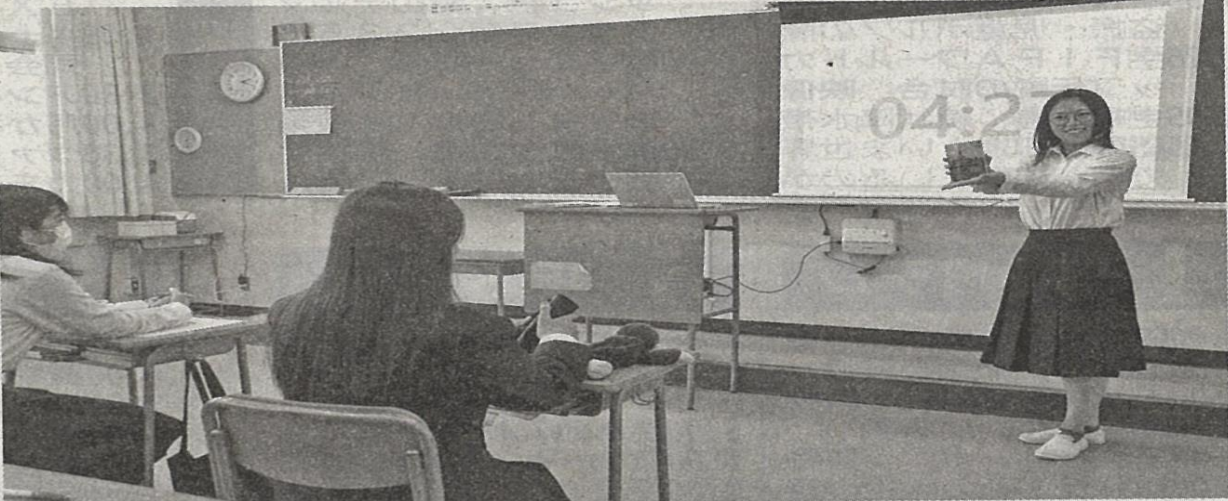
学年の枠にこだわりすぎずに、後輩にやったことを伝えていく交流をしていく。
担任・副担を含め全体で探究活動をサポートしていく。



・昨年度は地区予選を突破できたものの県大会で全国大会出場を果たすことはできませんでした。今年こそは全国大会出場！！

「ビブリオバトルをきっかけに」

中津分校で読書のススメ講座



本の紹介する坂口さん

想像力などを知らない内に高め、生きる力になる。実体験と読書のバランスが大事」などと伝えた。

ビブリオバトルについては、目的として①書籍情報共有②スピーチ能力向上③良書探索力④コミュニケーションなどの機能あるとし、「本を通して人を知る、人を通して本を知る」を強調した。

このあと、ビブリオバトルのルール、ポイントなどを説明、同校で県大会にも出場した経験のある坂口琴音さん（2年）、網代涼佑教諭、向井さんの3人で実演して、ビブリオバトルの魅力を学んだ。

県の令和6年度読書を楽しむ習慣づくり事業の高校生向け講座「本って面白い！読書のススメ講座」が7日、日高高校中津分校で開かれ、同校の生徒が書評合戦「ビブリオバトル」について学んだ。

講師には、県立図書館から副主査司書の坂口佐和子さんと司書の向井渚さんを迎えた。講座では、小中高と上がるにつれ、本を読む冊数が減ることに触れ、勉強、部活、ネット、面倒など原因として、「読書は、感受性、記憶力、思考力、

令和6年7月27日付け 日高新報

令和6年7月25日付け 紀州新聞

昨年度より選手権和歌山大会においてコーヒー販売実習を行っています。試合前の短い時間でしたが、盛況でした。

分校生が球場でコーヒー販売



夏の高校野球和歌山大会が開催されている和歌山市の紀三井寺球場で23日、日高中津分校の2年生4人が紀州備長炭で焙煎したコーヒーを販売した。

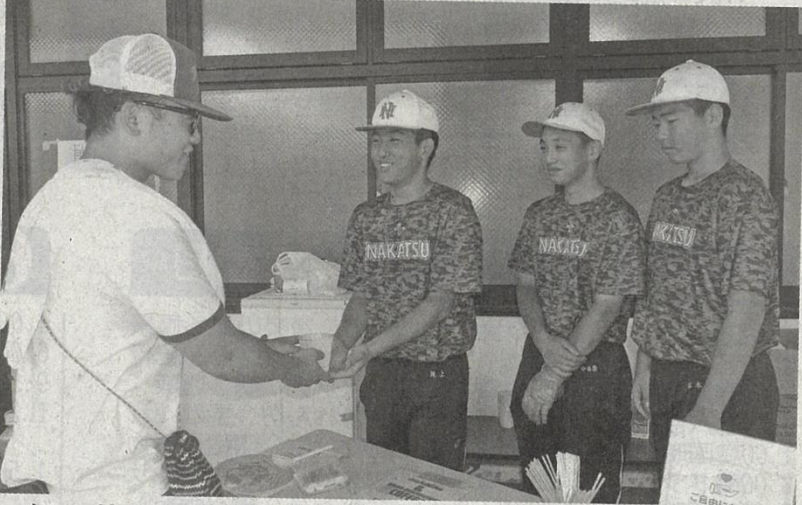
コーヒーは生徒たちが地域資源の備長炭を活用し、独自の焙煎方法でつくり、アイスコーヒーとアイスカフェオーレの2種類をいずれも300円で販売。店頭では生徒が冷たいコーヒーをコップに注

エルフィン

い得手渡していた。この日は同校野球部が2試合目で登場。保護者や観客がコーヒーを買い求め、用意していた分がほぼ完売した。販売終了後、売りの生徒たちはスタンドから野球部を応援した。

野球敗退も備長炭珈琲人気

日高中津が紀三井寺で販売



紀三井寺球場で来場者に珈琲を販売する中津分校生

3年前からOBの製炭者から備長炭の端材を譲り受けて珈琲豆の焙煎から販売に取り組んでいる。この日、前日から仕込んだ水出し珈琲としてアイスコーヒーとアイスカフェオレを用意。珈琲豆はフェアトレードで入手した東ティモール産。ストローは麦製、カップは竹製でプラスチックを一切使わない環境を意識したエシカル商品で、入場者に爽やかな喉越しと涼しさを届けて人気を集めた。

今年度の1年生の総合的な探究の取り組みとして、S d g sに視点を置き、ファーストリテイリング社より講師を招聘し「届けよう、服のチカラ」プロジェクトの意義や取り組み方法について出前授業を受けました。今後、回収方法、プレゼン、告知ポスター作成等生徒が主体的に取り組めます。

令和6年6月25日付け 日高新報

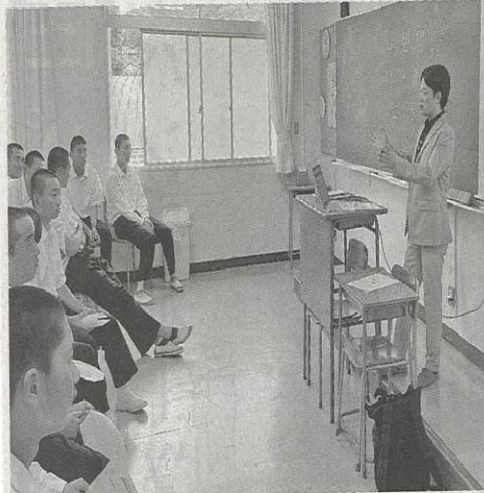
令和6年6月25日付け 紀州新聞

届けよう服のチカラ

ファーストリテイリング
リテイリング

日高高校中津分校で18日、服メーカーのユニクロやGUなどを展開する株式会社ファーストリテイリングの「届けよう、服のチカラ」プロジェクトに関する出張授業が行われた。

プロジェクトは全国の児童や生徒が主体となっており、着なくなった子ども服を回収し、世界の難民や避難民に届ける活動。2013年からスタートし、これまでの累計で4315校、約47万人の児童生徒が参加。23年度は全国の744校、児童生徒約8万8000人が



ファーストリテイリングの社員が生徒たちに「服のチカラプロジェクト」を説明

中津分校で出張授業

参加し、約3万着の子ども服が回収された。中津分校も今年度からプロジェクトに参画する。

出張授業の講師は、ファーストリテイリングの社員で、難民の現状、服の大切さ、実際に服を集めるアイデアや活動例などを説明した。生徒からは「自分

「多くの難民に笑顔が戻れば」

Fリテイリングで子ども服回収へ

日高中津分校

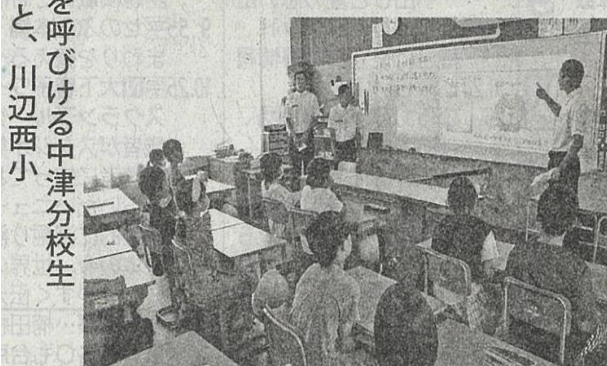
世界の難民問題など社会課題への理解を深めようと、日高高校中津分校1年生22人が今年度から取り組んでいるファーストリテイリングの「届けよう、服のチカラ」プロジェクトは、大

「届けよう、服のチカラ」プロジェクトで29日に中津小、30日に川辺西小を訪れ児童に取り組みを説明し、子ども服の回収を呼びかけた。

このプロジェクトは、大手服飾メーカー「ユニクロ」などを傘下に置く、ファーストリテイリングと、UN HCR（国連難民高等弁務官事務所）が取り組む、小中高生が対象の参加型学習プログラムで、社員の出前授業を受けた子どもら



児童子ども服の回収を呼びける中津分校生
中津小（上）と、川辺西小



令和6年9月1日付け 日高新報

“届けよう、服のチカラプロジェクト”の意義、取り組みを、なかつ保育所、中津小学校、川辺西小学校、に生徒達が出向いてプレゼンを行い、プロジェクトの説明と服の回収の協力をお願いしました。

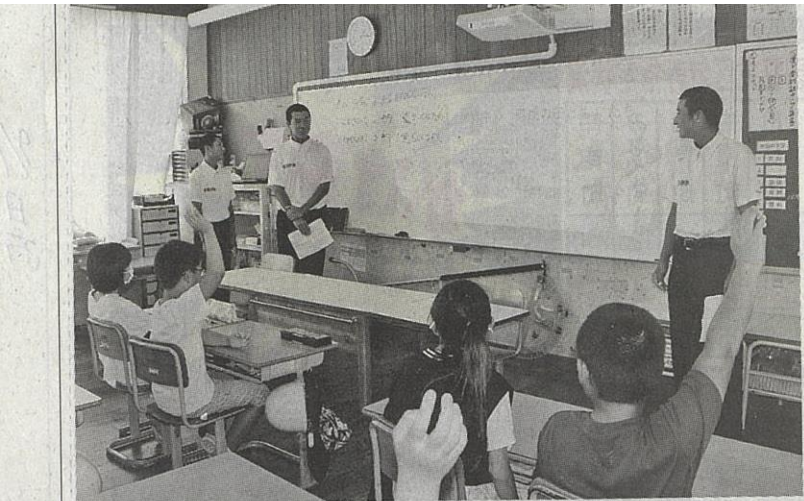
小学生にも協力呼びかけ

日高中津分校生「服のチカラ」プロジェクト

日高川町のめて難民や避難民に提供を要望した。アパレルメーカーのユニクロやGUを傘下とする株式会社ファーストリテイリングの「届けよう、服のチカラ」プロジェクトを通じて、着なくなった子ども服を回収して世界の難民に届ける。

同プロジェクトは2013年からスタートし、23年度は全国の744校、児童・生徒約8万8000人が参加した。

川辺西小学校では片桐盛寛君、服部滉君、梶谷恭弘君の中津分校1年生の3人がプロ



プロジェクトへの協力を依頼する分校生ら

たちと同年代や年子ともに難民が多数を知った。プロジェクトを通じて服を届けたらと思う」と話していた

のほか、戦争を連想させる迷彩柄、ドクロ、武器柄などは入れられない。回収日は9・10月下旬を予定しているなどと説明した。

2人は「ぜひたくさん子ども服を回収できるように協力してほしいです。多くの難民の子ども達に笑顔が戻ることを心から願います」と話した。

川辺西小には、片桐盛寛君、服部滉君、梶谷恭弘君の3人が訪れ、4・6年生88人を対象にプロジェクトへの協力を呼びかけた。

8月22日 なかつ保育所でのプレゼン模様



令和6年9月1日付け紀州新聞第23784号(6)

「多くの難民に笑顔が戻れば」

Fリテイリングで子ども服回収へ

日高中津分校

世界の難民問題など社会課題への理解を深めようと、日高高校中津分校1年生22人が今年度から取り組んでいる「ファーストリテイリング」の「届けよう、服のチカラ」プロジェクトは、大

ラ「プロジェクトで29日に中津小、30日に川辺西小を訪れ児童に取り組みを説明し、子ども服の回収を呼びかけた。

このプロジェクトは、大手服飾メーカー「ユニクロ」などを傘下に置く、ファーストリテイリングと、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）が取り組む、小中高生が対象の参加型学習プログラムで、社員の前授業を受けた子どもら

が、着なくなった子ども服を回収する取り組みで、服を必要とする人に届けることが目的。

29日は、同校の小田大輝君と嶋津斗君が中津小学校を訪れ、4～6年生あわせて31人を対象に授業。難民の現状や人口に触れたあと、活動内容を紹介。子ども服は洗濯して、回収ボックスに入れるだけ。回収するのは、夏服冬服は問わず、サイズはベビーサイズから160センチまでだが、下着や帽子、アクセサリ等

のほか、戦争を連想させる迷彩柄、ドクロ、武器柄などは入れられない。回収日は9・10月下旬を予定しているなどと説明した。

2人は「ぜひたくさん子ども服を回収できるように協力よろしくお願いします。多くの難民の子ども達に笑顔が戻ることを心から願います」と話した。

川辺西小には、片桐盛寛君、服部凜君、亀谷恭弘君の3人が訪れ、4～6年生88人を対象にプロジェクトへの協力をお願いかけた。

児童子ども服の回収を呼びける中津分校生

中津小（上）と、川辺西小

今年度の3年生の新しい取り組みとして、紀州備長炭の端材とドリップ後のコーヒー豆のかすを利用して消臭剤を作りました。製作にあたり、日高高校科学部の協力を得て、実際に消臭効果があることを確認してもらいました。商品化には、かわぎしスポーツ様も協力してくれました。9月24日にアパレルーム紀の国で行われましたロハスフェアでは17個完売しました。

9月17日付け 日高新報

コーヒーかす十備長炭

中津分校が消臭剤を製品化

日高高校中津分校は、コーヒーをドリップした後に残るコーヒーかすと規格外の紀州備長炭を活用し、消臭剤として製品化した。コーヒー豆の表面には多くの小さな孔があり、活性炭と同じ多孔質構造。備長炭も表面に開いている無数の穴で空気中の匂いを吸着するという。24日、県内の高校などから出品されるロハスフェア（和歌山市）で初めて販売される。

完成した消臭剤を手に中津分校生

日高川 同校は以前から規格外の備長炭で焙煎したコーヒーを販売しており、100杯程度で1キ以上のコーヒーかすが発生するという。コーヒーかすは今までは廃棄処分していたが、生徒から「捨てるのではなく、再利用できないか」という声が上がリ、消臭剤として活用するを思いついた。

製品化への取り組みは5月からスタートし、2、3年生7人でプロジェクトチームを結成。日高高校の科学部に消臭効果の測定を

9月20日付け 紀州新聞

今度は紀州備長炭で消臭剤

日高中津生徒が商品化成功

備長炭を使った消臭剤を商品化した中津分校生徒

紀州備長炭規格外製品を借用した焙煎珈琲生産に取り組む日高中津分校の生徒が、焙煎後に出るコーヒーがらを使用した消臭剤を完成させ、商品化にこぎつけた。

消臭剤の製品化には、日高高校本校の科学部とかわぎしスポーツ店（御坊市）が協力した。消臭剤の容器は体操服やジャージを作る過程で捨てられる端切れを再利用し、中津分校の生徒

が考えた野球をイメージしたボールの柄にかわぎしスポーツ店が縫製。消臭剤の消臭効果は、日高本校科学部が実験で検証しており、確かな結果を得ている。

商品は、県下の9高校が農産物、生徒作品を展示販売する和歌山市で開催の第26回アパレルーム「ロハスフェア」で販売。中津分校では「地元の特産品を活用したこの商品は、地域社会への貢献を目指しており、多くの方々に親しまれることを期待しています」と話している。

ネマカン 2023.06

メージ。カラーのバリ会へ貢献していきたい」と話している。

てコーヒーかすと合わせ、体操服やジャージの切れ端を再利用して包んだ。商品化に関してはカワギンスポーツで販売するほか、カワギンスポーツでも扱っている布の切れ端の提供や裁縫などで協力。デザインは分校生が考案に愛される商品とし、

後はイベント会場でも販売するほか、カワギンスポーツでも扱っている布の切れ端の提供や裁縫などで協力。デザインは分校生が考案に愛される商品とし、

新 聞

第3種郵便物認可

第23813号

(6)

備長炭焙煎珈琲が優秀賞

関大ビジネスプランコンペ

中津分校

関西大学商学部創設100周年記念事業として5日に開催されたビジネスプラン・コンペティションKU BIC2024「学生の力で、紀州備長炭の規格外商品を活用して備長炭焙煎珈琲（コーヒー）の製造販売に取り組む日高中津分校、高専250校、大学一校のプランが優秀賞を獲得した。

中津分校は、田口滉翔君と堂代眞蒼君が「紀州備長炭焙煎珈琲」炭で焙煎、端切れで包む」とテーマに焙煎珈琲のビジネスプランを発表。同コンペには高専、高専250校、大学一校のプランが優秀賞を獲得した。



焙煎珈琲ビジネスプランを発表した中津分校チーム

般から206の462件のビジネスプランの応募があり、中津分校は高校・高専部門の予選を勝ち抜いて4組の最終選考に進出した。中津分校ではOBの製炭者の協力を得て紀州備長炭焙煎珈琲の製造。珈琲の生産から販売を通じて、珈琲豆を発展途上国など公正な取引（フェアトレード）で販売されている製品を使用するなどエシカル消費に取り組み、今年度から開始した消臭剤の開発などをブレゼンに盛り込んだ。

優秀賞受賞に田口くんと堂代君は「緊張したが、とても良い経験になった」「この経験を今後のプランに生かして後輩に受け継いでいきたい」と話した。

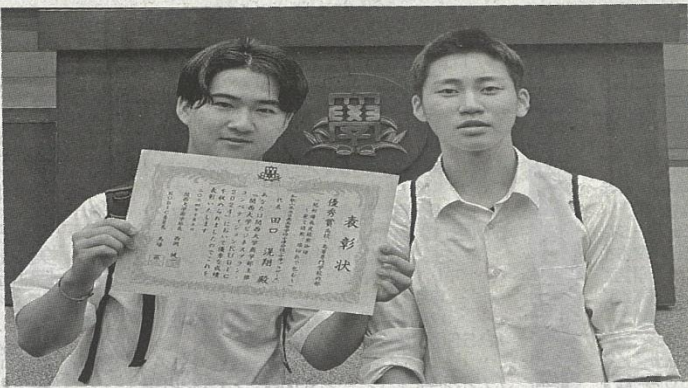
7

2024年(令和6年)10月9日(水曜日)

日

田口君と堂代君(中津分校) 優秀賞

関西大ビジネスプランコンペ



優秀賞に輝いた堂代君(左)と田口君(右)

で優秀賞を獲得した。中津分校で取り組んでいる規格外の紀州備長炭を使った焙煎珈琲に加え、コーヒーをドロップした際に発生する珈琲からと備長炭を活用した消臭剤についての内容で、「紀州備長炭焙煎珈琲」炭で焙煎、端切れで包む」というテーマで応募。全国から集まった256件の中から1次と2次の書類審査をパスし、最終の本選に進出する4組に選ばれた。

本選のブレゼンではアイデアを競う関西大学主催のKU BIC 関大ビジネスプランコンペティション・コンペティション校・高等専門学校の部で、高専250校、大学一校のプランが優秀賞を獲得した。

ります。『もったいない』という思いから取り組みました。消臭剤に関しては、中津分校は全校生徒の約9割が硬式野球部です。サインは野球のボールにしました。など説明した。

2人は「緊張したが、とてもいい経験になった。この経験を今後のプランに生かして後輩に受け継いでいきたい」と話していた。

中津分校

千着以上の子ども服を回収

届けよう服のカプロジェクト



生徒らが回収した子ども服

世界の難民問題など社会課題への理解を深めようと、日高高校中津分校1年生22人が今年度から取り組んでいるファーストリテイリングの「届けよう、服のカ」プロジェクトで、29日に子ども服の回収を締め切った。

プロジェクトは、大手服飾メーカー「ユニクロ」などを傘下に置く、ファーストリテイリングと、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)が取り組む、小中学生が対象の参加型学習プログラムで、社員の出前授業を受けた子どもらが、

着なくなった子ども服を回収する取り組みで、服を必要とする人に届けることが目的。

同校は8月末に、なかつ保育所、中津小、川辺西小の3カ所に、子ども服の回収ボックスを設置し、児童らに家庭で使われなくなった服を持ち込んでもらうよう呼びかけていた。

回収は定期的に行い、これまで16箱分が集まり、Tシャツをはじめ、長ズボンやスカートなどの子ども服1000着以上を回収。集まった服は、生徒らが、キッズ、子ども春・夏、子ども秋・冬に仕分けし、ユニクロに送られる。

同校は「たくさんの子どもの服が集まりました。ご協力ありがとうございました。みなさんのおかげで、一人でも多くの難民達に笑顔が戻ると幸いです」としている。

中津分校生が難民を支援

服のチカラプロジェクトに参加

日高 日高高校中津分校は、不
要となった子
ども服を集め難民や避
難民に提供するアパレ
ル企業、株式会社ファ
ーストリテイリングの
プロジェクト「届け
よう、服のチカラ」プ
ロジェクトは20
13年からスタート

し、23年度は全国の7
44校、児童・生徒約
8万8000人が参加
した。
中津分校はなかつ保
育所、川辺西小学校、
中津小学校の協力を得
た。

て、約2カ月かけて子
ども服を集め、同
日、1年生22人が段ボ
ールに詰めて発送し
た。

説明した。
絵本の歴史や種類、
シヨプ、音楽と絵本を
融合させたイベントな
どを考えています。世
語た。



集まった子ども服を段ボールに詰める生徒たち

11月14日付け 紀州新聞

生徒が実際に芸術に触れる機会となりました。紀州備長炭という地域に根ざした素材を題材にし日常の中にある身近なものを新たな視点で観察し。感じ取る機会になりました。
芸術家の妻木良三先生によるデッサンの説明を受けたあと、全校生徒がデッサンに取り組みました。

分校生が紀州備長炭の奥深さを表現

芸術家指導でデッサン授業

日高中津



芸術家の妻木さん（前列中央）とともに作品を手にする生徒たち

と炭の色が全然違って
いて、新しい発見があつた」
などと話し、炭の色合いや
光の当たり具合によって多
様な表情が生まれることに
感動した様子だった。
デッサンは、鉛筆だけを
使って行い「鉛筆だけで濃
淡をつけるのが難しかった」
と「こんな鉛筆の使い方を
したことがなかった」と
話し、普段の授業では体験
できない細かな観察力と新
たな表現方法を学び、芸術
に対する理解を深めた。

地元の特産、紀州備長炭の焙煎珈琲製造などに取り組む日高高中津分校で12日、備長炭を題材にしたデッサン授業が行われた。湯浅町在住の芸術家・妻木良三さんの指導で、備長炭

妻木さんの指導を受けたが、生徒が目の前に置かれた紀州備長炭を真剣に見つめ、手に取ったりして細かい陰影や質感を感じながらデッサンに挑戦。生徒らは「備長炭を見れば見るほ

